

【実践報告】

学校栄養教育実習Ⅱの報告

広島文教大学人間科学部

人間栄養学科 講師 塩田良子

1 はじめに

栄養教諭一種免許状の取得を希望する教職課程履修学生を対象とした教育実習は、授業科目「学校栄養教育実習Ⅱ」に含まれる。本実習は栄養教諭としての修得すべき知識・技術に関する内容が中心となる小学校等での教育の現場で行うものであり、その目的は、栄養教諭としての使命感を自覚し、職務内容について理解を深め、教育に関する資質と栄養に関する専門性を育成することである。

2 実施のスケジュール

| 項目 | 時期 | 主な内容 |
|--------------------|--------------------------------|--|
| 事前学習 (学内) | 4月～5月 | <ul style="list-style-type: none">・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。・実習校への事前訪問により、指導教諭等の指導担当者から、担当となる学級の児童・生徒の実態や、食に関する指導の全体計画、実習の事前課題を確認する。・実習校より出された課題について、模擬授業や給食指導、展示物の作成等を行う。作成物についてお互いに評価し合い、よりよい授業・教材になるよう工夫を重ねる。 |
| 本実習 5日間 (学外) | 6月 | <ul style="list-style-type: none">・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導教諭等からの学校・学級経営の説明、②児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習、③児童及び生徒への教科・特別活動における指導の実習、④食に関する指導の連携・調整の実習が挙げられる。・実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、栄養教諭の役割・業務等について理解を深める。 |
| 事後学習 (学内) | 6月～7月 9月 報告会は 9/27に実施 | <ul style="list-style-type: none">・各自の実習を振り返り、記録をまとめる。・各自の実習内容についての報告会を実施する。報告会では、与えられた課題の取り組みを通して学んだことや研究授業の紹介等について発表する。 |

3 活動の概要

(1) 研究授業（学級活動）の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

| テーマ | 対象 | ねらい |
|-----------------------|-----------|--|
| 命と体と食について考えよう [道徳] | 中学 1年生 | 自らの生命の尊さに気づき、心身の健康や生命の源となる食の大切さについて考え、自他ともに生命を大切にすることを育てる。 |
| 感謝の心 [道徳] | 中学 2年生 | お弁当を作ってくれる家族の気持ちを考えることを通して、食物を大事にし、食に関わる人々へ感謝する心をもつ。 |

| | | |
|------------------|-----------|---|
| 朝ごはんが目覚ましスイッチオン！ | 小学 4年生 | 朝食の3つの役割を理解する。栄養バランスのとれた朝食を考え、バランスの良い朝食を毎日食べようとする意欲をもつ。 |
| 海そうはかせになろう！ | 小学 4年生 | 身近になる海藻を観察することを通して興味をもち、海藻の良さを理解した上で海藻パワーを意識して食べようとする意欲をもつ。 |

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

- ・家庭科や保健体育だけでなく道徳や理科など幅広い教科で食に関する指導ができることを学んだ。また、連携する教員と授業内容や授業内で伝えたいことなどを共有することがいかに必要であるかを実感した。
- ・より良い授業内容にするためには、栄養教諭以外の先生方からも授業の進め方や指導方法、評価方法について指導をいただくことが大切だと分かった。
- ・中学校は教科担任制であるため、指導する先生によって生徒たちの反応も様々であるため、どのように問いかけを行うと生徒は答えやすいのか学ぶことができた。
- ・実態に合った指導を行うことで、子ども自身が行動に起こしたり、知識として活用できるのでどの学年にどの内容を教えることが必要なのか子どもとの関わりで把握しておくことを学んだ。
- ・学級ごとに雰囲気異なる、同じ内容の指導をする際は、進め方が一様であるとは限らないことを実感した。
- ・栄養教諭は授業時だけでは児童・生徒と関わる時間が少ないため、給食時間や下膳指導時などで積極的に関わる大切だと改めて認識した。

4 成果と課題

教科等における食に関する指導は、専門性を有する栄養教諭が“ティーム・ティーチング（T-T）”で授業に参画し、食に関する学習の状況等について、学級担任（教科担任）に情報を提供するとともに、児童生徒に対しても学習成果をフィードバックするようにしなければならない。

教育実習に臨むにあたり、栄養教諭がT-T方式で授業に参画することは理解できていても、実践の場での教科連携に戸惑い、そう容易いことではないことを体験したようである。また食に関する指導と関連させやすい家庭科や保健体育ではなく「道徳」という点でも苦心したようだが、その特質に応じて適切に、目標や内容、学習活動など様々な面で食に関する指導と関連付けさせて実践できたことは意義深い。また学校教育のなかで食育を拡充していくためには、年間指導計画作成段階に「食育の視点」を位置付け指導することの重要性にも気づけたのではないだろうか。

栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育を進めるものとして、食に関する指導の機会を得ていけるよう、「食の視点」を幅広くするべく、探求心・好奇心をもって常日頃からのネタ集めをまずは実行してもらいたい。